

新年に寄せて

関口克己

増尾



<土器>は、繰り返される天災にも、しぶとく繋いだ生命を、視てきたでしょう?(人が)作ってしまった災害でも、もっとしぶとく生きていきますよね。人間は造り直す力、止める力も持っているはずですから。(だって)「とにかく死ぬのはやだもんね」。昨年亡くなった天野祐吉さんの言葉です。(朝日新聞・CM天気図より)

※アマチュア陶芸家<あきず窯>の関口克己さんが、生命力溢れる縄文土器に憧れ、模して創った陶器が、ある時に壊れました。それを庭先の草むらに寝かせて、古代からの時間と歴史を空想してみても、モノと人間に通じる“生命欲”なるものがこころに浮かんだそうです。それは、争いの中でなく、朽ちるものに潜む平和の源として。

## 新年を迎えて

二〇一四年を迎えました。

ちょうど百年前の一九一四年は、第一次世界大戦が始まった年です。この戦争は、それまでの人類史上最も大規模で凄惨な殺戮戦になりました。

その戦争の悲惨な結果を前に、国際社会に戦争の罪悪を根絶しようという気運が高まり、その動きの結果として、一九二八年「パリ不戦条約」が結ばれました。これは史上初めて「戦争は違法」として戦争を放棄することを取り決めた画期的国際法でした。

残念ながらその後、不戦条約を無視した武力行使が実行され、第二次世界大戦につながりました。その平和破壊の先頭を切ったのが、わが日本だったのです。

第二次大戦で敗北した日本は、その反省の上に、日本国憲法を制定し、その第九条で戦争放棄を明記しました。これはまさにパリ不戦条約の精神を正当に受け継ぎ、よりいっそう徹底した平和主義を明文化したもので、全世界の模範となるものです。

しかし、いま安倍政権は、国家安全保障会議の設立や特定秘密保護法の強行などが端的に示すように、憲法を破壊する政策をこり押ししています。九条の空洞化はかつてないほど深刻になっています。

私たちは九条の精神をいかに守りぬくか、まさに正念場を迎えているといえます。悪条件の中でも諦めることなく、九条を守り活かす活動を強めていきたいと思います。

二〇一四年 元旦

おがわ町九条の会

永久に戦争をしないと誓った国の

# おがわ町民コンサート

2014年 2月15日(土)

午後2時開演(開場1時30分)

## パトリアおがわホール

出演  
新井ゆふ子(フラメンコ)  
大塚幸穂(チェロ)  
大塚秀子(歌唱)  
ハッピートレイン

券：大人¥1000 (当日¥1200)  
O(高校生以下 障がいをお持ちの方)  
¥500。お近くの運営委員からお求めください。お問い合わせ…  
04937741138 <渡辺>  
0493730291 <富田>

腹の底まで憲法でぶちまけよう!

この道はいつか来た道…

●安倍晋三首相  
8月初め、内閣法制局長官に小松一郎氏を任命。  
前駐フランス特命全權大使を任命。  
小松氏は海外での武力行使を可能とする集団的自衛権行使解釈改憲の積極的推進。

●麻生太郎・副総理兼財務相  
「誰も気付かないうちに憲法を改正する」「誰かの手口」に学んだらどうか」  
「7月29日の国家基本問題研究所月例研究会で発言」

●石破茂・幹事長  
「国防軍に軍事裁判所の設置を」「出動命令が出たときに」それに「従え」「それに従わなければその国における最高刑である」「死刑がある国は死刑、無期懲役なら無期懲役、懲役300年なら300年」といふように言う(「週刊ASTRS」編集部 4月21日放映インタビュー)

「二〇一四年に紹介するのは立命館大学「憲法9条・メッセ」プロジェクト(安西育郎、須田稔代表)」のチラシの一部です。(詳しくは「KOMPA」で検索)

# リレーメッセージ

坂本 均 小川

かつての正月映画『男はつらいよ』の主題歌に「♪どぶに落ちても根のある奴は いつかははちすの花と咲く 意地は張っても心の中じゃ 泣いているんだ兄さんは」というくだりがあります。1月5日で1歳になる娘（さくら）を風呂に入れる時に、「兄さん」の部分で「父さん」に変えて歌いますが、あまり喜ばれません。

「はちす」とは蓮のことです。泥水（困難）の中でこそ花は美しく咲くという仏門の教えを、幼い頃に御前さまから寅は聞かされたのかもしれない。ベトナムでは蓮が国の花とされていて、その花で香り付けされたお茶は名産品の一つです。実も根も美味です。ところが葉は、物を包む程度にしか用いられず、「蓮葉商い（はすっぱあきない）」というのは、まさに寅のなりわいを表す言葉で、よく出来た歌詞になっています。

新年も娘の誕生日も、今回はハノイで迎えることとなりますが、2014年はトンキン湾事件から50年という年でもあります。ハノイにある妻の家で、『マクナマラ回顧録』と『ペンタゴン・ペーパーズ』を読んで、冬場の蓮根のような粘り気をつけたいと思います。

11月8日から3日間小川町戦争展の実行委員会を中心とした皆さん(15名)が、沖縄平和学習ツアーに行きました。米軍基地(オスプレー、普天間、嘉手納)、辺野古(埋め立て)、高江(ヘリパット建設)を中心に現地の皆さんとの交流も深め、有意義な3日間だったそうです。阿部さんと野地さん、お二人の方に投稿を頂きました。

## 阿部ユウ子 みどりが丘

①高江のヘリパット、②辺野古の移設問題、③沖縄のある基地の現状、④米軍に思いやり予算。この4つの事柄は、私にとってどれも、上っ面だけ知っている、深くは掘り下げていないことばかりでした。

今回の4日間のツアーで、痛感したことは、日本国民は平和ボケと言われていたのが、沖縄は違う、まだまだ戦っているということです。

本土の人たちは、ただの観光で沖縄を訪れると、きれいな海、きれいな島、ところどころにある米軍基地、戦闘機・・・それほどの違和感なしに見ていくのだろうと思いました。沖縄県民の人達の本当の苦痛が、ニュースで取りあげられることはありません。凄く残念です。

こんなことを感じながらツアーに参加し、いろいろな出会いがありました。親身になってガイドをしてくださった方、美味しい料理と三線でもてなしてくださったペンションの方々、辺野古の座り込みで他県から移って一緒に活動している方々、本当に頭が下がります。

何もしていない自分が申し訳なく思い、この文章を書いている間も涙がでそうです。私にも何か出来ることはないか。署名をする、カンパをする、そして、一人でも多くの人達に関心を寄せてもらうことが大事だと思い、この文章を書いています。

## 野地 翠 大塚

ガイドさん付きの見学、学習会はとてもわかりやすくよかったです。空、陸、海もアメリカに支配されている現状は想像していたよりも数倍ひどいものでした。思いやり予算で作られた高層住宅(お風呂が3つもある)小学校、高校、スーパー、劇場などは広大な敷地に建てられていました。

宿泊したペンション「まーみなー」近くにもホテルのような大きな高層ビルが建てられていました。朝散歩に行き「今度そのホテルに泊まりたいね。」などとのんきなことをいっていたら、そこも家賃が「思いやり予算」で維持されている施設だということでした。

米兵の横暴なふるまいも日常茶飯事だということです。報道されるのはほんの一部でありほとんどの人が泣き寝入りしている現状があるということです。

高江のヘリパットも、私たちが見学した前後に新しく一基できあがったとか…。普天間基地の辺野古移転も先日のニュースで沖縄選出の自民党議員が5名、公約を覆し辺野古移転を容認したことが報道されています。ほんとに腹立たしい限りです。私たちは今、何ができるのか、何をすべきなのかこれからも学習していきたいと思いました。

「おがわ町九条の会」は「憲法九条を守りたい」と思う方ならどなたでも入会できます。「おがわ町九条の会」は皆様の会費(一口200円)とカンパで運営されています。ご連絡をお待ちしています。(0493-74-1138 渡辺)

# 一緒に平和を守りましょう

去年は「国家安全保障会議(日本版NSC)」「秘密保護法」など平和が脅かされる法案が、国民の反対を無視して相次いで成立しました。今こそ「平和」を、「憲法九条」を一緒に守りましょう。三人の発言をご紹介します。「平和」について考える指針にしてください。(詳しくはそれぞれの下記をご参照下さい。)

## 瀬戸内寂聴さん



1922年生まれ。天台宗の尼僧(僧位は僧正)。小説家。1997年文化功労者、2006年文化勲章。「青空法話」は定評がある。

東北のお寺、天台寺で法話をしています。ある日、小さい男の子が、ぱつと立ち上がって、「これから日本はどうなるんでしょう」と言うんです。

私はびっくりして、なんでそんなこと言うの?と聞いたら、「これから憲法9条がなくなったら、戦争に行かなくてはいけない。ぼく、戦争に行きたくない。まだ、やりたいたいこといっぱいあるから死にたくない」というんです。そうしたらわーっと何千人か拍手が沸いたんです。

だから私は、今の拍手はあなたを励ましている拍手よ。あなた嫌なら嫌ってがんばんなさい。僕は戦争にいきたくない、9条を守るってことをしょっちゅう、しょっちゅうしゃべりなさいっていったんです。

そしたら「それでいいんですか。じゃあ、できます」と言ったんです。

(「新・行雲流水」<http://kitarou78.blog118.fc2.com/blog-entry-370.html>)

## 半藤一利さん



1930年東京向島生まれ。東京大学文学部卒業後、文藝春秋入社。「週刊文春」「文藝春秋」編集長、取締役を経て作家。

国家というのは一つの機軸があった方がいいんです。その機軸をもとにして国家を作っていく。わたくしは「憲法9条を守る会」には直接参加していません。むしろ自分ひとりで「育てる会」を唱えているんです。守るだけでなく、9条の精神を世界にアナウンスするという役割を日本人がもっと果たすべきだと思っています。そのほうが人類のためになる。守るんじゃなくて発信して大きく育てた方がいい。たった一人ですが「育てる会」の提唱者というわけです。

(「いま戦争と平和を語る」(半藤一利 井上亮編 日本経済新聞出版社))

## 愛川欣也さん



1934年東京生まれ。俳優座養成研究生(3期生)を経て、劇団三期会を結成。俳優としてテレビ、映画、舞台でも活躍中。

「軍隊を持たない」というのは、交戦権を持たないという意味です。自国まで攻めてこられたら守る、というのは当たり前の話です。それが今、攻められてもいないのに、海外に出かけていけるように、あぶなく改悪されてしまうことが怖いのです。歯止めのために、憲法9条は変えて欲しくないのです。「戦争はしない、だけど自衛隊は持つ」。僕の中では、今は「これが憲法9条」でいいんです。

憲法で一番大事なことは「戦争放棄」なんです。これを憲法でうたっている国は、日本とコスタリカぐらいです。戦後60年を経て、日本が世界に影響を持つ大国になったというのであれば、憲法もその誇れるもののひとつなのです。

(「マガジン9」<http://www.magazine9.jp/>)

「さよなら原発東松山の会」では、3月1日から16日の期間に、「さよなら原発埼玉県内同時多発的総行動(パレード・デモ)」を各地で取り組むことを訴えています。詳しい計画は次号でお知らせします。